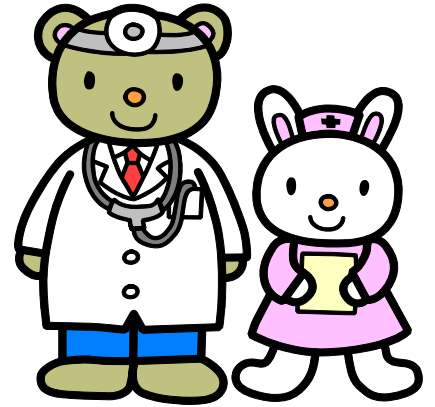


ことぶき薬局 TEL055(977)6024 FAX055(984)0770 たまち薬局 TEL054(251)1678 FAX054(251)1685  
ひまわり薬局 TEL053(463)4312 FAX053(460)4612 みかん薬局 TEL053(584)2230 FAX053(584)2240

## Q1 ピロリ菌について

ピロリ菌は胃の粘膜に生息している「らせん」の形をした細菌です。胃は強い酸(胃酸)があるため、細菌にとっては決して生育しやすい環境にありません。ピロリ菌がこのような胃の中で生育できるのは、ウレアーゼという酵素を発生することで胃の中の尿素をアンモニアに分解し、酸を中和することで菌体を守っているためと考えられています。



## Q2 どのようにしてピロリ菌に感染するの？ 感染を予防する方法は？

感染経路は口を介した感染が大部分と考えられています。通常、免疫力の不十分な乳幼児期に感染し、そのまま胃に住みつくと考えられます。ピロリ菌の感染率は、衛生環境と関係していると考えられ、上下水道の普及率の悪いところで高いといわれています。日本におけるピロリ菌の感染率は年齢と関連し、10～20歳で20%程度、50歳以降で70～80%となっています。免疫力が不十分な子供の頃に経口で感染したことが主な原因ですので、食べ物の口移しや殺菌処理されていない水は飲ませないでください。周囲の衛生環境が整っていれば、生活環境の進歩、生活習慣の変化とともにこの菌を持っている人は減少していますので、感染者はさらに少なくなると思います。

## Q3 ピロリ菌に感染している人は、みんな除菌した方がいいの？

ピロリ菌に感染すると必ず潰瘍になるわけではありません。

日本人のピロリ菌感染者の数は約6000万人といわれていますが、ピロリ菌が原因で胃潰瘍や十二指腸潰瘍になっている人はそのうちのごくわずかです。

ほとんどのピロリ菌感染者は、症状も無く、健康に暮らしています。

薬を服用することで、ピロリ菌を退治する治療を「除菌療法」といいます。

これまで胃潰瘍・十二指腸潰瘍は再発しやすく、再発のたびに治療が必要でした。

しかし、胃潰瘍や十二指腸潰瘍の人がピロリ菌に感染している場合、除菌療法を行うことによって、完全ではありませんが、大部分の潰瘍の再発が抑制されることが分かってきました。

除菌治療が勧められる病気は、胃潰瘍・十二指腸潰瘍。胃MALTリンパ腫(悪性度の低い胃悪性リンパ腫です。除菌により約70%が改善するといわれています。)があります。

Q4 ピロリ菌に感染しているかどうかどうやって調べるの？

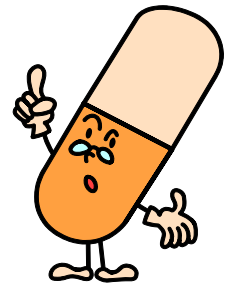
胃カメラを使う方法	鏡検法	採取した組織の中にいる菌を特殊な色素で染めて確認する方法。
	培養法	採取した組織の中にいる菌を繁殖させてから確認する方法。
	迅速ウレアーゼ試験	ピロリ菌が尿素をアンモニアに変えるウレアーゼを多量に持っていることを利用して、採取した組織の中の菌ではなくウレアーゼを照明して確認する方法。
胃カメラを使わない方法	血中抗体検査	血液の中のピロリ菌感染により作られた抗体(感染に対する抵抗物質)を測定。
	尿素呼気試験	ウレアーゼを利用した方法。ウレアーゼは尿素からアンモニアを作る際、同時に炭酸ガス(CO <sub>2</sub> )を発生させる。そこで、試薬を飲んで胃の中で発生して肺から排出されるCO <sub>2</sub> を測定する。測定も数分で診断精度も高く、最も信頼できる検査方法。除菌判定においても極めて有効で、現在最も用いられている。

Q5 ピロリ菌除菌について教えて。

現在、保険で除菌治療が認められているのは胃潰瘍・十二指腸潰瘍の患者さんで、ピロリ菌に感染している人です。

除菌治療は3種類の薬「ランソプラゾール(胃酸を抑える薬)」と「アモキシシリン」「クラリスロマイシン」(2つとも抗生物質)を1週間服用します。

ランソプラゾールで胃酸分泌を抑えて胃酸から2種類の抗生物質が分解されるのを守り、十分量のアモキシシリンとクラリスロマイシンで胃の中の                      を殺します。抗生物質のどちらか1種のみだと除菌成功率が大幅に下がります。



すべての治療が終了した後、4週間以上経過してからピロリ菌が除菌できたかどうか検査を行います。

正しく薬を服用すればピロリ菌の除菌は約80 - 90%成功すると報告されています。もしもピロリ菌の除菌に失敗した場合は、主治医と相談してその指示に従ってください。

Q6 除菌を成功させるために注意することは？

**確実にピロリ菌を除菌する為に、指示されたお薬をしっかり服用しましょう。**

自分の判断で服用を中止すると、除菌に失敗して、治療薬に抵抗性を持ったピロリ菌が現われることがあります。

除菌療法中は副作用として

- 1) 軟便・下痢：便がゆるくなったり、下痢を起こしたりすることがあります。
- 2) 味覚異常：食べ物の味がおかしいと感じたり、苦味を感じたりすることがあります。
- 3) 肝機能異常：肝臓の機能を表す検査値が変動することがあります。

軟便や軽い下痢・味覚異常の場合は自分の判断で服用する量や回数を減らしたりせずに、残りの薬を最後まで服用し続けてください。この場合は除菌をし終わることが優先となります。

ただし、症状がひどくなった場合には、我慢せず、医師・薬剤師に相談をしましょう。また、発生は稀ですが、発熱、腹痛を伴う下痢、便に血が混じっている場合はただちに薬の服用を中止して、主治医または薬剤師に相談してください。

その他、気になる症状を感じた場合には、自分の判断で勝手に中止するのではなく、主治医または薬剤師に相談しましょう。